

後期の実践報告

3年

H14.2.22

学年研修テーマ 「自分の課題をもち、進んで取り組む子」

(1) 後期の取り組み

① 「 発見 みんなの町 大岡 」

日 時	活 動 内 容	児 童 の 様 子
H13 11.14	<p>発表会（パビリオン形式） 前半の発表（1・2組） 後半の発表（3・4組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラスが内容ごとに8つのパビリオンで発表した。 ・児童は、自分の発表と似ていることなど、あらかじめ決めておいたパビリオンを回るようにした。 ・保護者にも参加を呼びかけ、ゲストティーチャーとして、質問や助言をしてもらうようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての発表形式だったが、まえもっ行く場所が決まっていたので、落ち着いて行動できた。 ・保護者の参加もあったので、大勢の人に聞いてもらえて、子供達も満足していた。 ・保護者には質問してもらえたが、児童は初めて聞く事が多いので、聞くのが精一杯で質問まで行かない子も多かった。 ・パビリオン同士が近かったこともあり、声の小さい子の発表は聞きにくかった。
H14年 1月	<p>昔のくらしを体験しよう</p> <p>水運びとせんたく 鉛筆けずり（ナイフ） かつおぶしけずり ぞうきんぬい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習とも関連づけ、地域の名人に目を向ける、きっかけとなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは遊び半分楽しんで取り組んだ子も、実際やってみると、大変さやむずかしさが分かった。 ・ぞうきん縫いについては、糸を通したり、玉結び・玉止めをしたりするのが難しいので、保護者に協力してもらった。 ・様々な体験を通して、昔のくらしについているいろいろなことに気づくことができた。
2月	<p>「地域の名人に学ぼう」</p> <p>竹馬づくり 大根でっぼう なぎなた やさい作りと昔のこと 手話 ブラジルのこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「発見みんなのまち大岡」に基づいて、6つの内容で保護者や地域の方にゲストティーチャーを依頼した。 ・自分で決めた内容について、事前に図書室で調べたり家の人に聞いたり、インターネットで検索したりした。

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分け ・課題づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の学習の後、名人に質問したいことや、さらに知りたいことなどを課題とした。 ・事前に調べたことの教え合ったり、課題を発表しあったりして課題意識を高めた。
20日	<p>「地域の名人に学ぶ会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問したいことなどは、あらかじめゲストティーチャーに知らせ、準備してもらうようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達にとって、初めての体験だったので、分かった、できた、という喜びが大きく、やったことを他のグループ子に熱心に伝えようとしていた。
3月	1年間のまとめと反省	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のがんばりを認め合い、来年度の総合的な学習への意欲を高めるようにしたい。

②パソコン学習

2クラス3T（担任+大村先生）で3グループがローテーションして、パソコンではめんこづくりをしたり、インターネットで調べ学習をしたりしてきた。他のグループは、鉛筆削り・鯉節削りなど行った。

(2) 成果と課題

成果

- ・学年全体でのパピリオン発表をすることによって、発表の方法（地図、本、紙芝居、パンフレット）や、発表のしかた（声の大きさ、姿勢、顔の表情）など学び合うことができた。
- ・後期は、体験活動を多く取り入れたので、楽しみながらも意欲的に課題を見つけ解決していくことができた。
- ・社会科の学習と関連づけて、ぞうきん縫い・鉛筆削り（ナイフ）などの活動を経験する中で、昔の人の知恵や技術のすばらしさに気づいた。そこから前期に地域へ目を向けた活動とも結びつけ、「地域の人に学ぶ会」を計画したので、一人一人の課題づくりにも内容の深まりがあった。
- ・地域の人や保護者とのふれあいによって、大岡のよさに気づき、大切にしていこうという気持ちが育った。

課題

- ・前期からの活動である「発見ぼくらの町大岡」では、子供達一人一人の課題が違っていたので自分が、全体の中でどこに位置し、友だちはどんな活動をしているかを、十分理解していなかった。そのため、発表会でも友だちとの学び合いが少なかった。学年の掲示板などに、活動の流れや全体の様子など常掲しておくとうよかった。
- ・時間のゆとりがなく、教師が計画を立ててしまうことも多かったが、早めに子供に投げかけて子供達の計画する場面をもっと多くし、主体的な活動ができるようにしたい。
- ・地域のゲストティーチャーを招いて活動する際には、事前の打ち合わせを密にするとともに、学校体制として継続的にお願いする方が、いてもいいのではないかと。

年間の考察と課題

3年

H14.3.2

学年研修テーマ 「自分の課題をもち、進んで取り組む子」

1 つけたい力について

(1) 問題解決

- ・校区探検という活動を通して、身近なことから課題をつくったことは、3年生としてはよかった。テーマ別にグループを作り、さらに探検したりインタビューしたりしたので、見通しがついた。
- ・課題解決の過程では、個人差が大きかったが、「インタビューする。」「本で調べる。」「観察する。」「インターネットで調べる。」などの学び方を体験できた。

物珍しさからの課題では、行き詰まることが多いので、具体的な解決方法と結びつけて課題づくりができるとうい。

(2) まとめ方・発表の仕方

- ・どの子も自分なりに、本・紙芝居・パンフレット・新聞などのかたちにまとめ、友だちの発表から学ぶことができた。
- ・パビリオンごとに、どの子も保護者を含めた聞き手の前で、精一杯発表し、友だちの発表のよさも認めていた。

「声の大きさ」、「相手に分かるように、自分の言葉で話す」など、まだ不十分な子が多い。

(3) 主体性・創造力

- ・自分なりに選んだテーマやグループで、熱心に話を聞いたり、活動したりしていた。
- ・調べたことを、まとめたり発表したりすることによって、自分なりにやりとげた喜びや聞いてもらい、認めてもらう喜びを自覚できた。

(4) 生き方

- ・「地域の人に学ぶ会」では、自分なりにテーマを選び、そのテーマに基づいて体験したことに喜びと自信をもった。

2 残したい活動

- ・学年の初めに、「学び方」を学習したのは、その後の活動に大変役に立ったので、残したい。
- ・3年生は、「活動を通して学ぶ」「遊びを通して学ぶ」学習が適していると思われるので、「竹細工」「竹馬」などの活動は、大変よかった。地域に教えてくださる方もいるので続けたい。

3 来年度の方向

- ・課題づくりの際、どの程度教師側がしぼって投げかけるか、方向づけするかが大切ではないか。児童の実態をよく見るとともに、今年度の研修をもとに考えたい。